

坂本龍馬を思う（河野天籟）
さかもとりようま おも こうの てんらい

幕雲 日を掩うて 日將に 傾かんとす
ばくうん ひ おお ひ まさ かたむ

南海の 臥龍 帝京に 翔る
なんかい がりよう ていきよう かけ

一夜 狂風 幹を 折ると 雖も
いちや きようふう みき お いえど

維新の 大業 君に 頼つて 成る
いしん たいぎようきみ よ な

幕雲掩日日將傾

南海臥龍翔帝京

一夜狂風雖折幹

維新大業頼君成

解説 幕末、維新の大業への道を招いた英傑、坂本龍馬をたたえた作品。

語釈 ※幕雲Ⅱ世の中を暗くおおう徳川幕府の黒雲の意。

※日Ⅱ天子を意味する。 ※南海Ⅱ土佐。 ※臥龍Ⅱ坂本龍馬。

※翔Ⅱ縦横に翔け巡って活躍する。 ※狂風Ⅱ龍馬に敵対し、龍馬を斬り殺した一派。「幹を折る」との関連で狂風に見たてたもの。 ※幹Ⅱ坂本龍馬をたとえた。 ※君Ⅱ坂本龍馬。

※成Ⅱ成功。

通釈 幕府の黒雲が、わが日本を覆い、国運の傾こうとする時、龍馬は志をいदैて立ち上がり、大政奉還によって新しい時代を招来せんとして京都を駆け巡った。だが一夜狂った風が、この大樹の幹を折ってしまった。坂本龍馬が凶刃に倒れたのだ。だが、大政奉還は実現し、維新は成った。その大業は龍馬あつてこそその成功だったのである。